

第3章

現状把握

1 自然条件.....	12
2 社会的条件.....	15

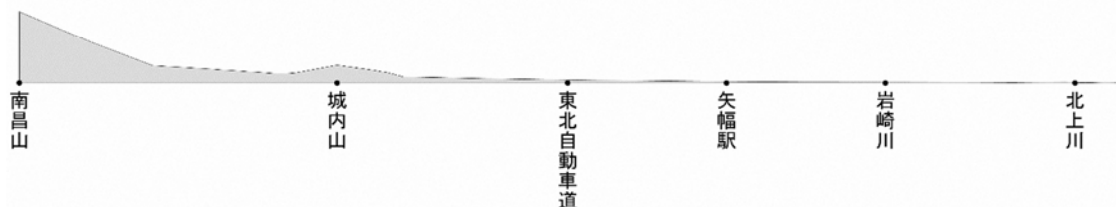
1

自然条件

1-1 自然条件、地形水系

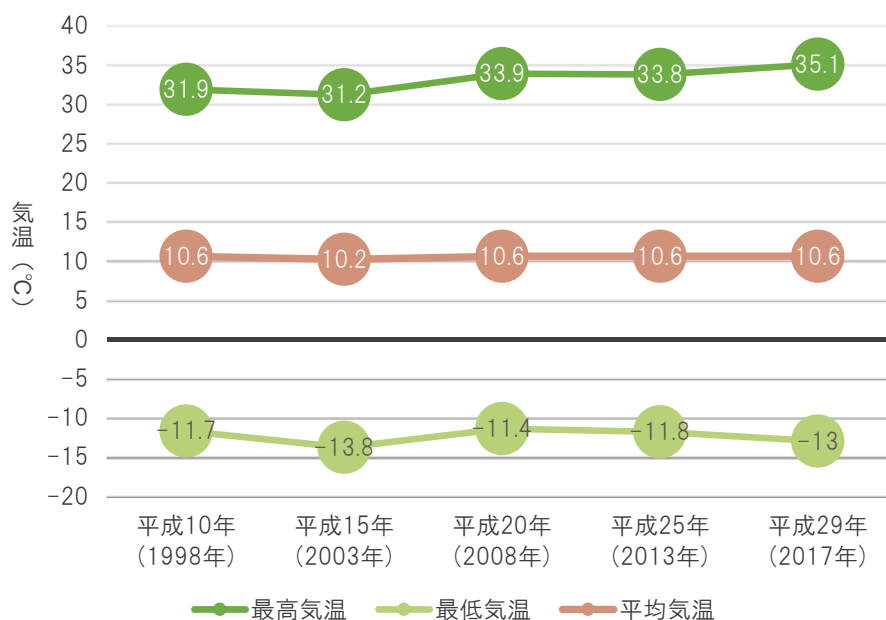
本町は岩手県中央部に位置し、県庁所在地である盛岡市の南に隣接する、面積が 67.32 km²の、のどかな山と田園風景が広がる里と人が共存するコンパクトな町です。

本町の西部には標高 848m の南昌山がそびえ、東は日本有数の河川である北上川が流れています。本町の中央部は平坦地であり、稲作に適した自然条件をそなえる県央の優良農地が広がる田園地帯となっています。

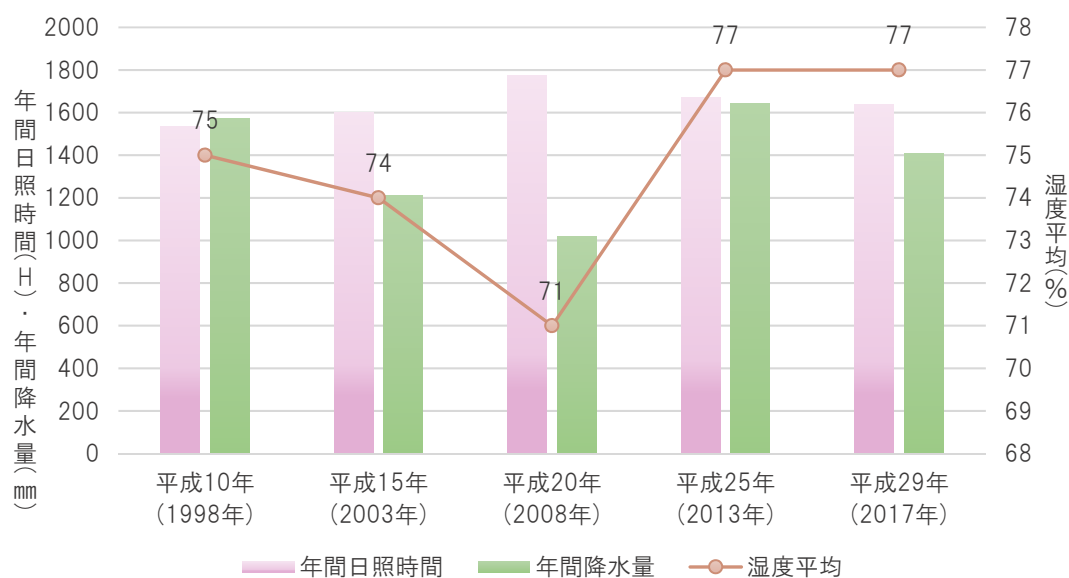


1-2 気象環境

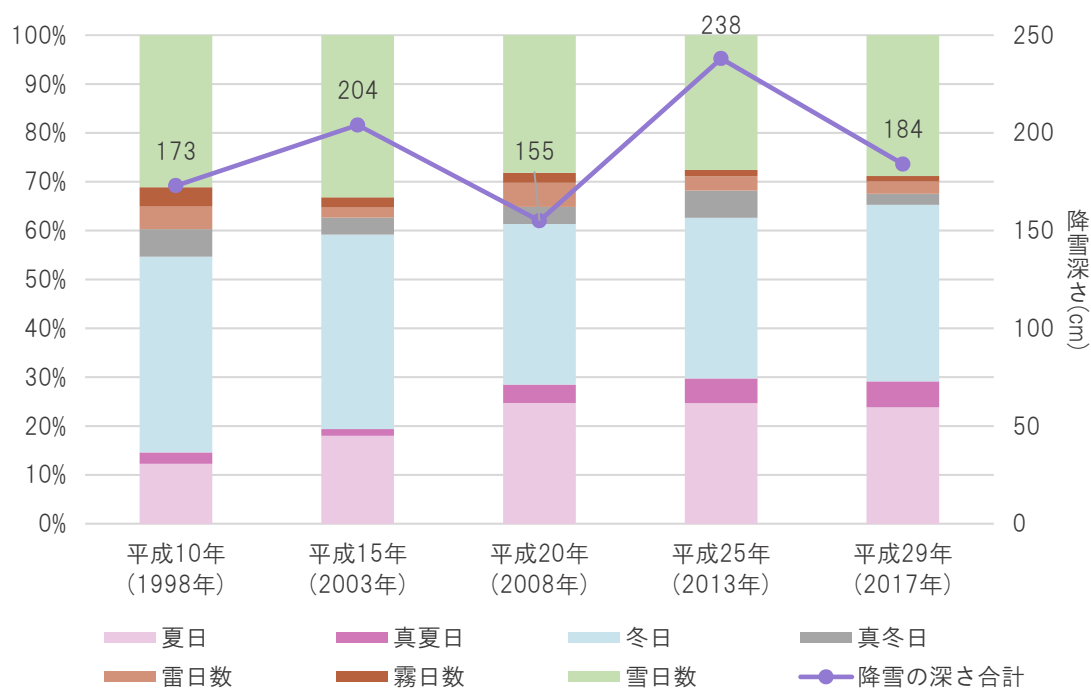
本町は、夏が暑く、冬が寒い典型的な内陸型気候を示します。そのため、四季折々の表情を見せてくれます。また、冬の積雪が少ないことから比較的温和な気候と言えます。



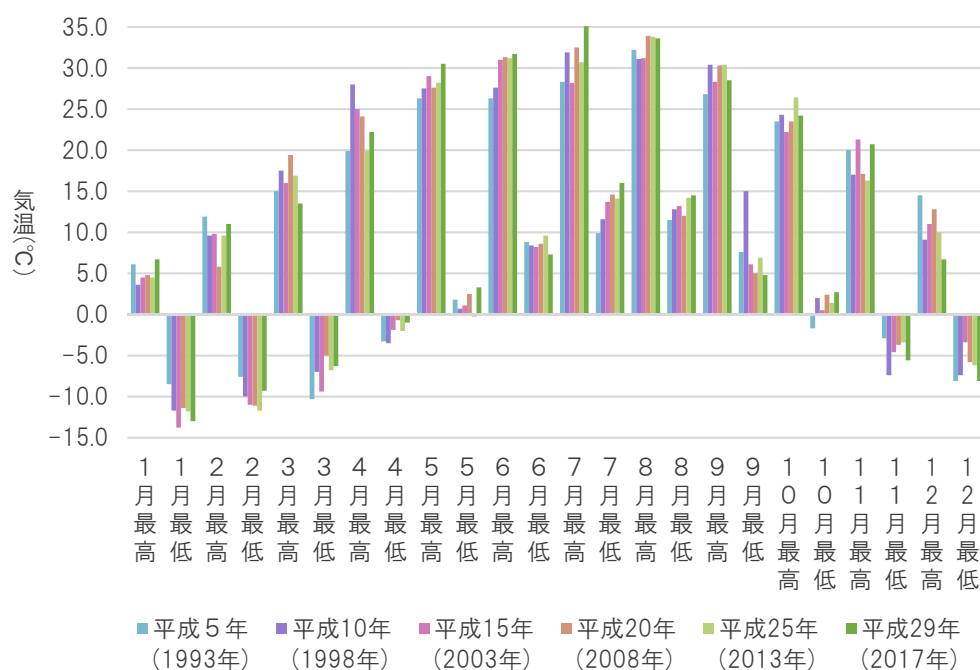
資料：盛岡地方気象台



資料：盛岡地方気象台



資料：盛岡地方気象台



資料：盛岡地方気象台（盛岡観測所による観測値）

1-3 地質土壌

標高400m以上の地帯は丘陵地として起伏が大きく、主として火山層になっています。しかし、南部と東南部の一部は石英粗面岩によって構成され、東南縁はほとんど第三紀系凝灰質砂岩あるいは砂質下位頁岩を基盤に上層は新規堆積物の火山放出層の成層が存します。この新規堆積物の生成時期は長期にわたっており、ローム質土又は粘土状であり、一般的に保水性に富み軟弱です。

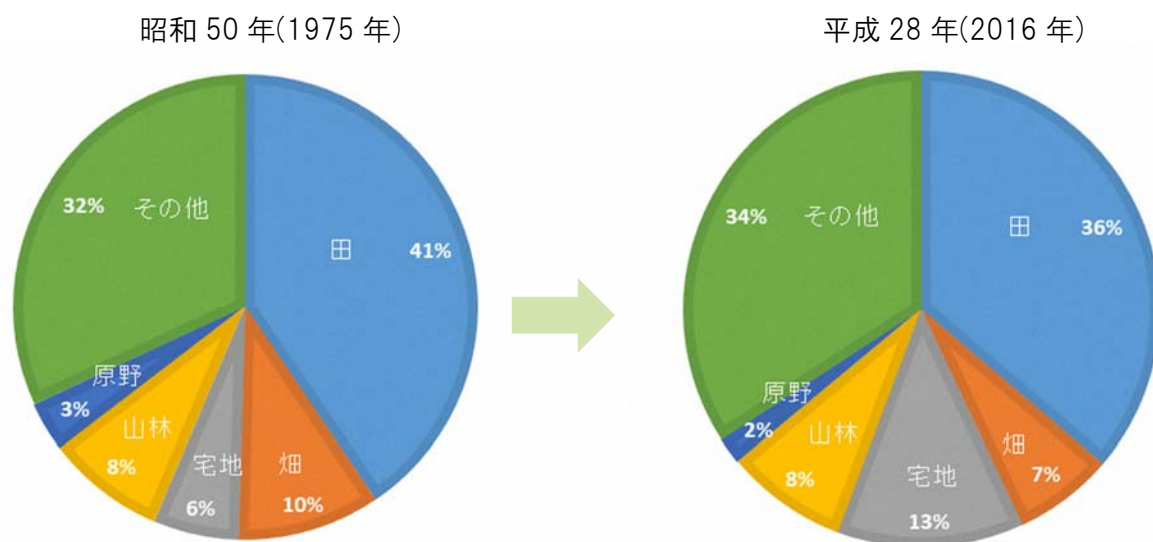
1-4 動植物相・緑地現況

町内の森林は、岩手山の火山体主部（原生）の一部が国立公園にも指定されている天然木ですが、これを除いた木々と火山麓（里山）は二次林や人工林です。

また、近年、山林所有者など林業関係者の高齢化や後継者不足により、山林、森林の管理が停滞し、野生生物の個体数減少が懸念されます。

1-5 土地利用の推移

昭和50年(1975年)と平成28年(2016年)の土地利用の推移を次に示します。主に田と畑が宅地に土地利用転換されています。



資料：税務課「固定資産概要調査報告書」

2 社会的条件

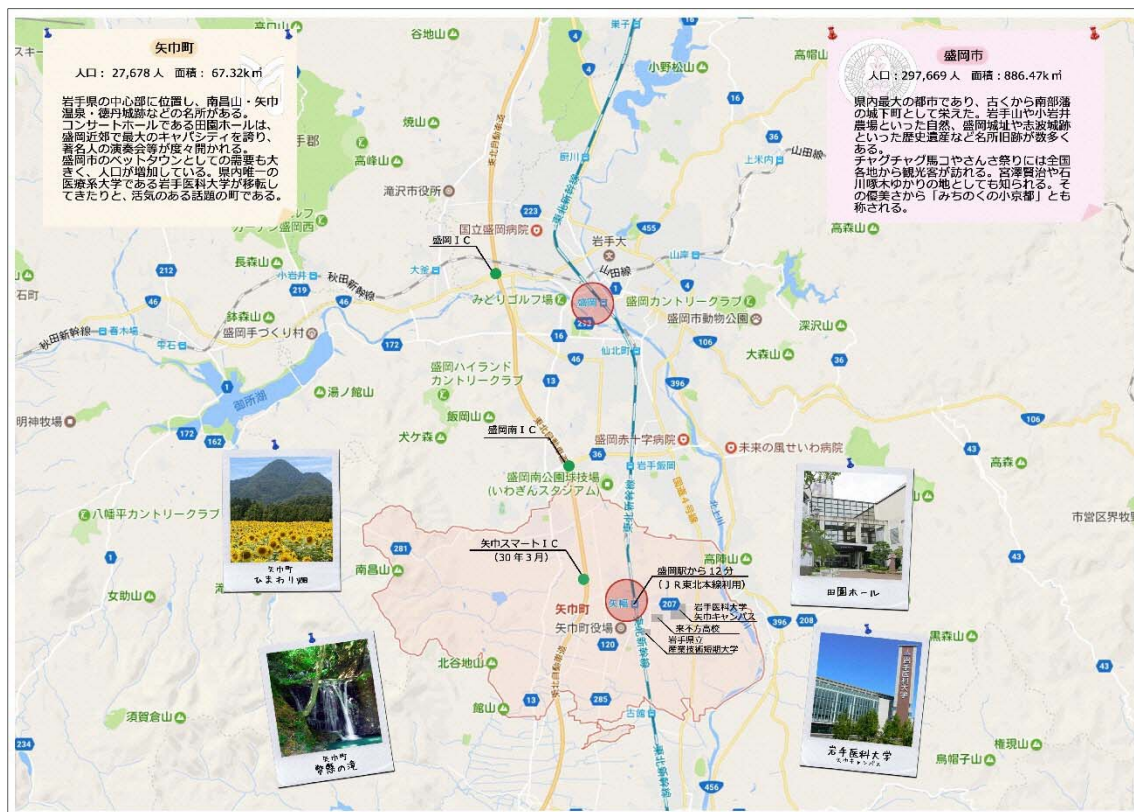
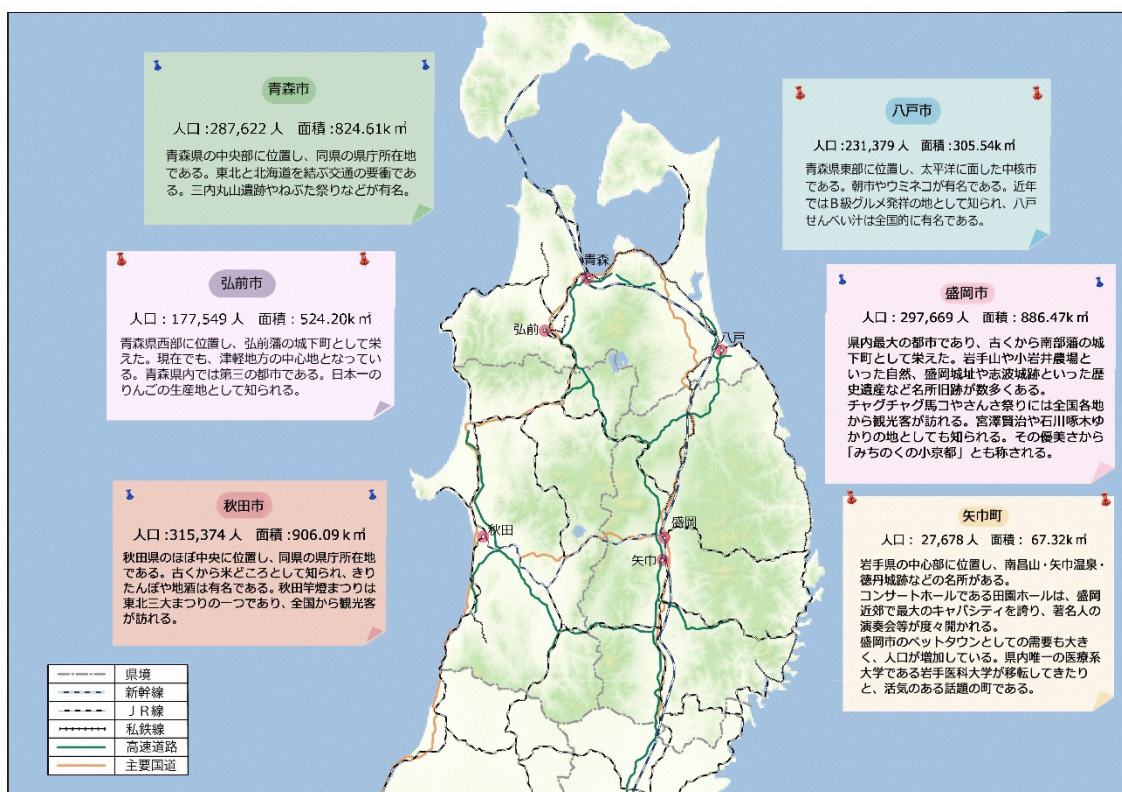
2-1 広域の位置づけ

岩手県は、北東北3県の南側にあり、県庁所在地である盛岡市は、交通結節点としての重要な役割を果たしています。

矢巾町は、岩手県の中央に位置し、盛岡市の南に隣接する豊かな自然と田園に囲まれたまちです。東に北上川が流れ、西にまちのシンボルである南昌山をはじめとする奥羽山脈の山並みが連なり、田園地帯に広がる自然豊かな環境に加え、東北本線、東北縦貫自動車道や一般国道4号など交通においても恵まれたまちです。

この交通利便性により盛岡市のベッドタウンとして宅地化が進み、現在も人口が堅調に増加しています。また、北東北物流拠点の岩手流通センターを中心に企業立地が進展しています。

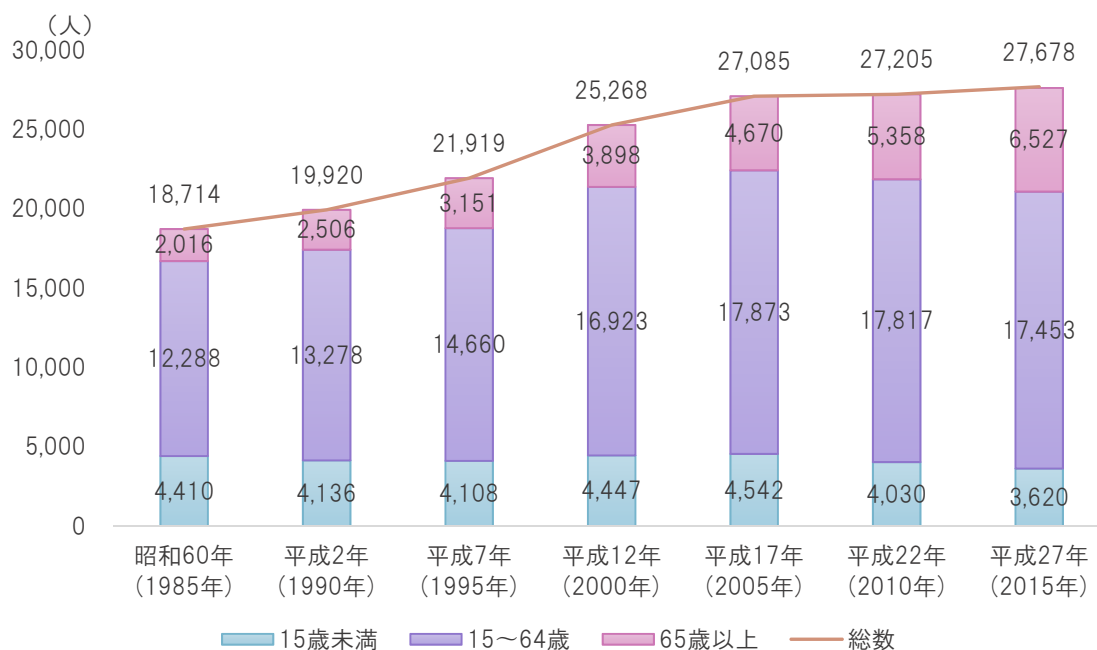
そして、近年は岩手医科大学の移転を契機に、岩手医科大学附属病院、岩手県立療育センターが移転立地し、岩手県消防学校とあわせて広域の医療・防災拠点として期待されています。これに伴い緊急搬送の必要性から矢巾スマートインターチェンジも供用開始されています。



2-2 人口・産業の状況

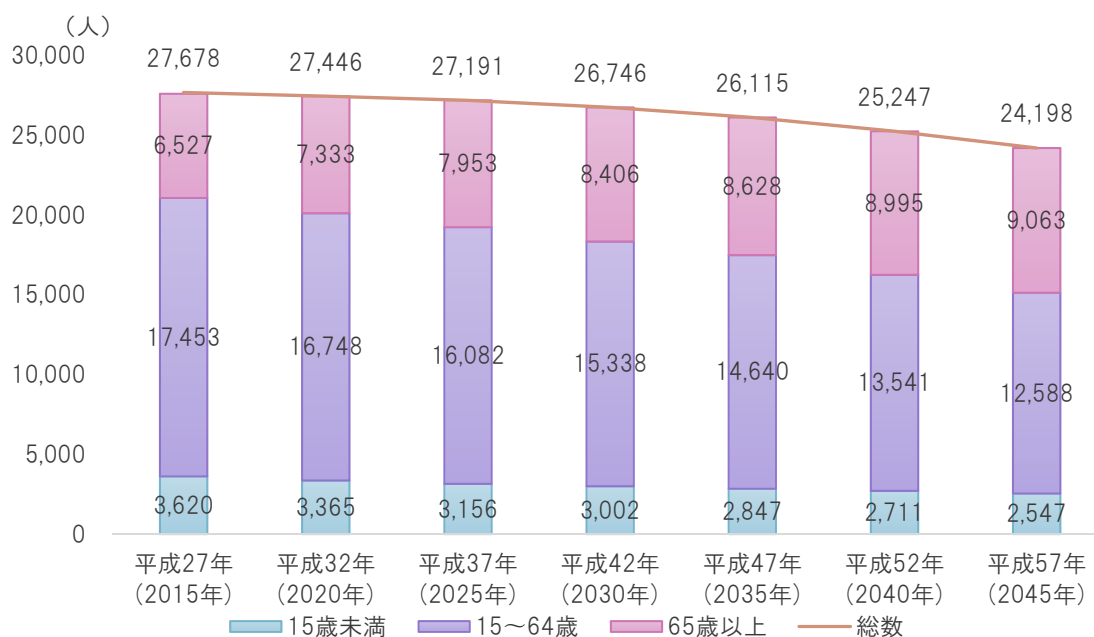
(1) 人口の推移

本町の人口は都市化の進展とともに着実に増加していますが、構成では全国的な課題でもある少子高齢化の傾向が徐々に表れています。



資料：国勢調査

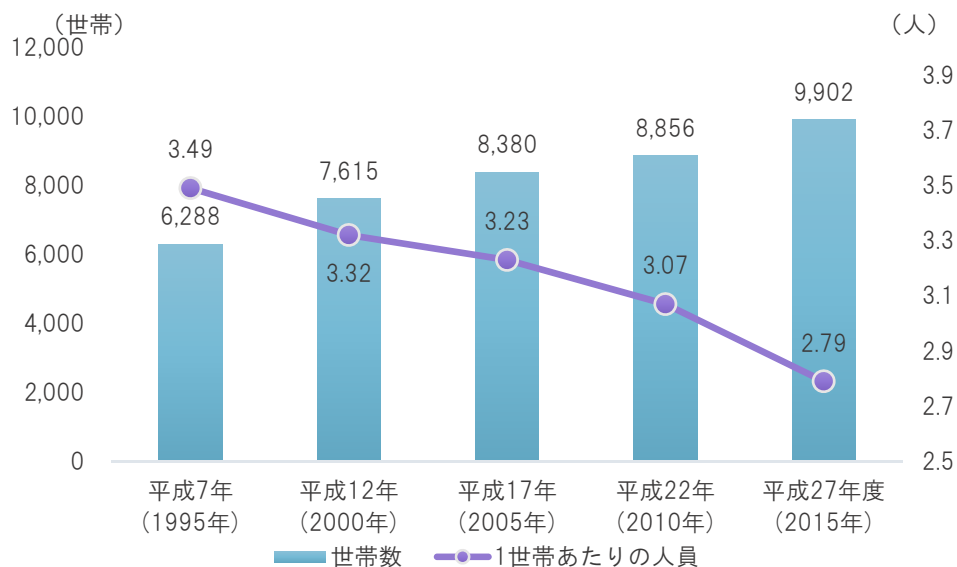
なお、将来人口推計では、人口減少、少子高齢化等の影響から 30 年後には現状から約 13%減少することが予測されています。



資料：国立社会保障人口問題研究所
(平成 27 年のみ国勢調査)

(2) 世帯数の推移

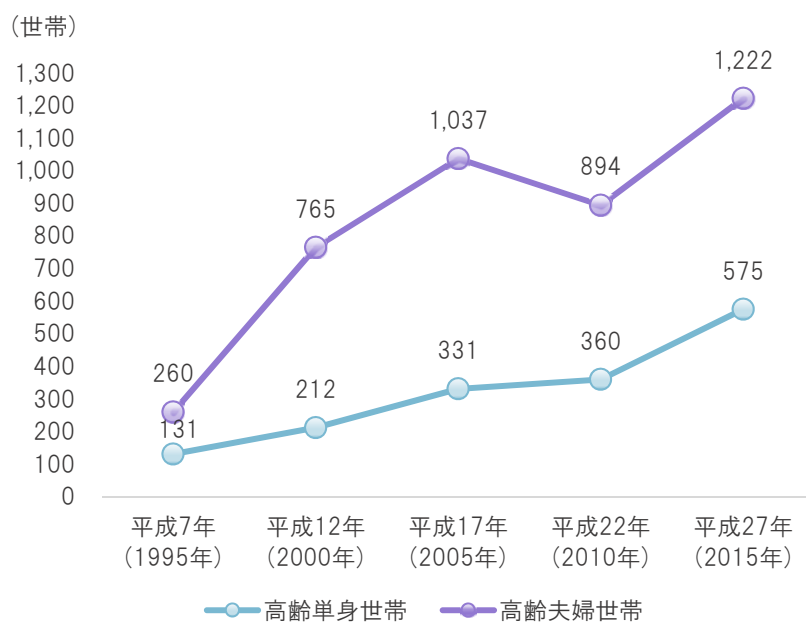
核家族化、単身世帯の増加により一世帯あたりの人員は減少、世帯数は増加の傾向となっています。少子化と未婚率の増加などにより、この傾向は今後も続くことが予測されます。



資料：国勢調査

(3) 高齢者世帯の現状

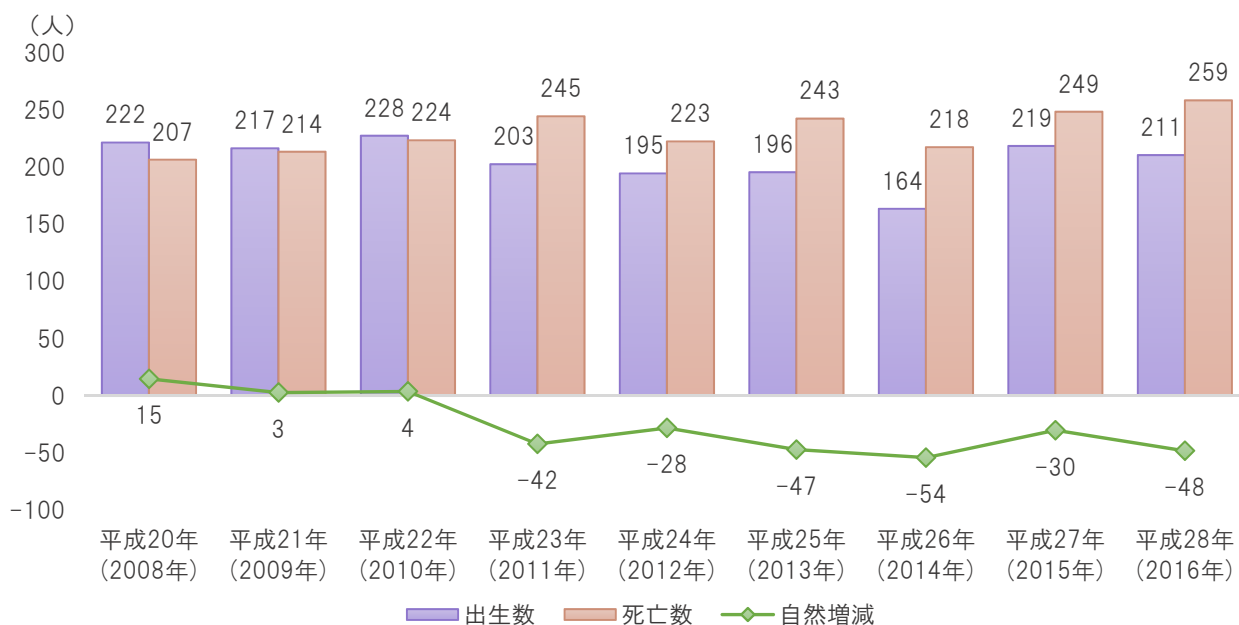
高齢化社会の表れとして、高齢夫婦世帯及び高齢単身世帯が増加しています。



資料：国勢調査

(4) 自然動態

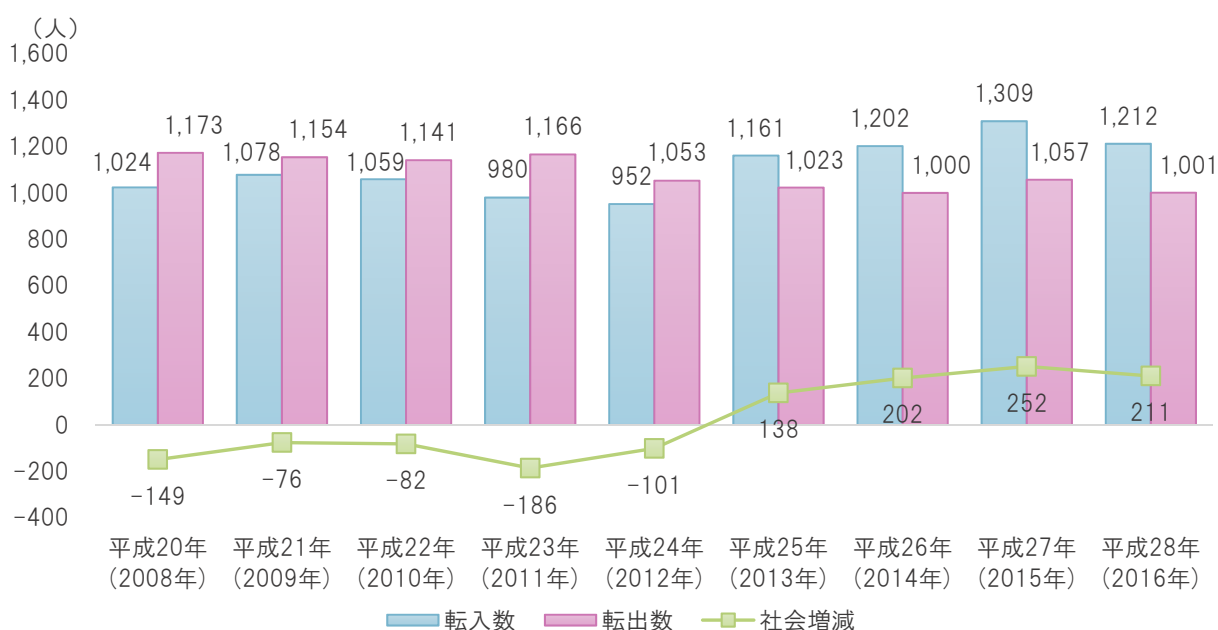
人口の自然動態として、平成23年(2011年)から死亡者数が出生者数を上回っていることから、減少傾向であることを示しています。



資料：住民課

(5) 社会動態

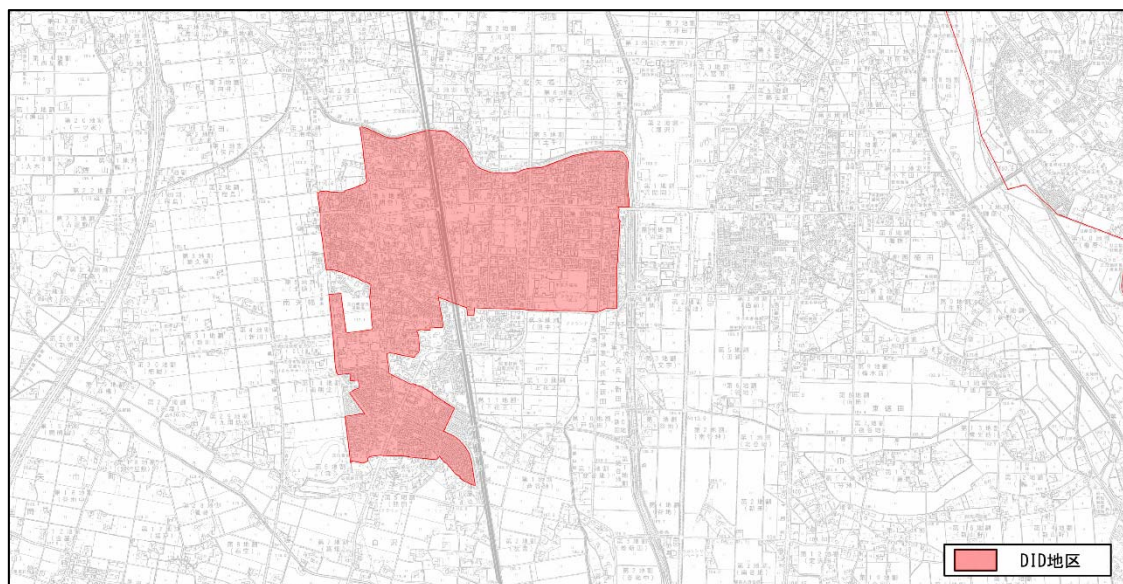
人口の社会動態として、平成25年(2013年)から転入者数が転出者数を上回っていることから、増加傾向であることを示しています。



資料：住民課

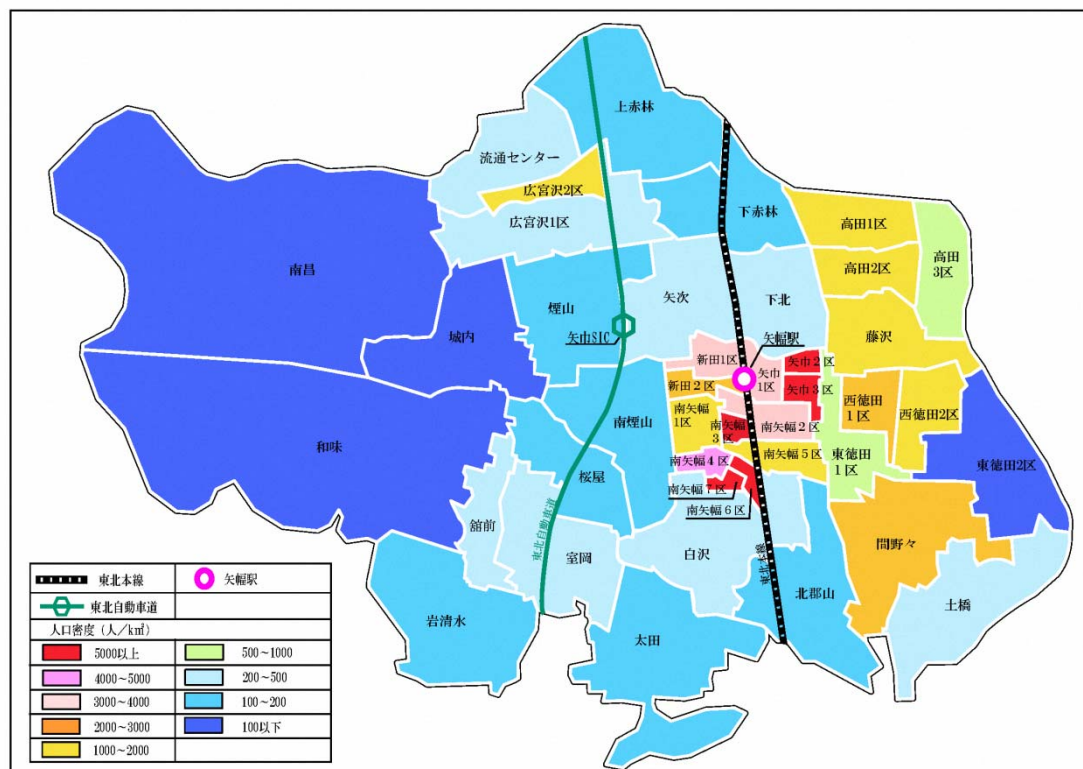
(6) DID地区

市町村の区域内で人口密度が4,000人/㎢の基本単位区域が互いに隣接して、人口密度が5,000人/㎢以上となる人口集中地区が、矢幅駅を中心に形成されています。



(7) 行政区の人口密度

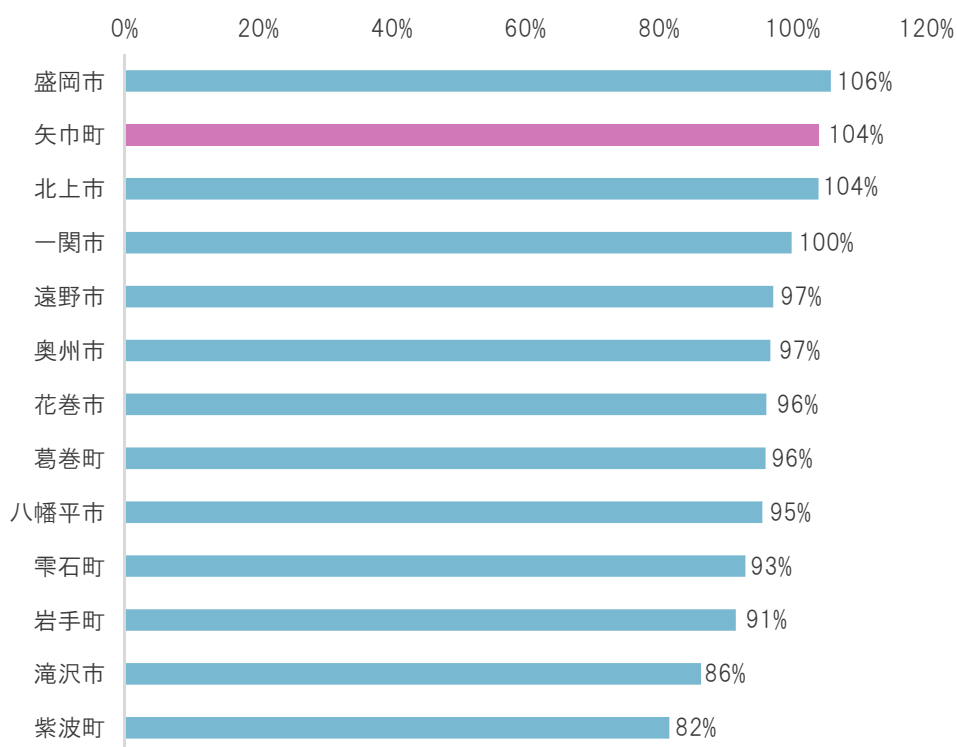
本町の行政区域毎の人口集中の傾向を行政区域別人口密度（1 ㎢当りの人口）で概観します。



(8) 昼夜間人口比率

夜間人口を100とした時の昼間人口の指数を昼夜間人口比率といい、この比率が100%を超えている市町村は、人が集まるまちであり、雇用機会が比較的確保されている場合が多いと言われています。

今後、岩手医科大附属病院の開業に伴い、昼間人口が飛躍的に増加することが予測されます。

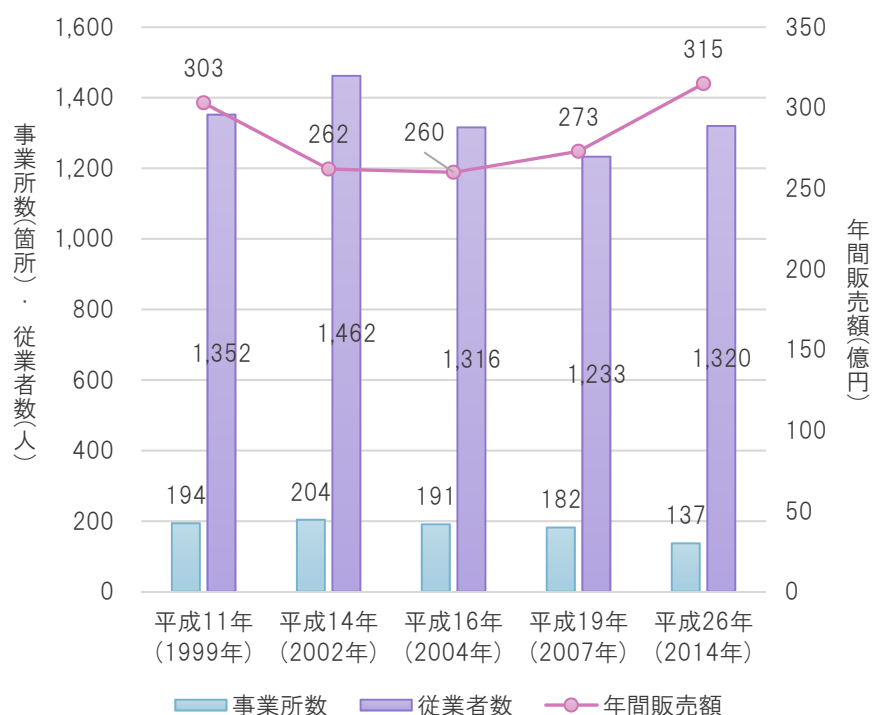


資料：国勢調査（平成27年(2015年)）

2-3 小売の推移

(1) 小売業の推移

事業所数は減少傾向ですが、大規模商業施設の立地により、販売額と従業者数は増加傾向となっています。



資料：商業統計調査報告書

(2) 周辺市町村の卸売業及び小売業の状況

市町村名	卸売業計				小売業計			
	事業所数 (店)	従業者数 (人)	年間商品 販売額 (百万円)	売場面積 (㎡)	事業所数 (店)	従業者数 (人)	年間商品 販売額 (百万円)	売場面積 (㎡)
盛岡市	844	8,118	620,386	...	2,181	20,115	401,664	497,097
花巻市	144	1,482	112,641	...	749	4,623	83,635	132,768
北上市	203	1,486	113,642	...	657	4,465	101,832	143,867
二戸市	59	507	55,712	...	310	1,444	27,332	33,638
八幡平市	33	186	5,681	...	231	1,167	20,322	27,861
奥州市	246	1,593	79,765	...	1,044	5,826	114,487	174,178
滝沢市	64	405	27,439	...	179	1,660	38,177	31,679
雫石町	13	180	2,642	...	118	609	8,884	12,597
葛巻町	6	18	335	...	79	271	4,813	9,535
岩手町	20	76	1,588	...	124	674	9,770	13,600
紫波町	33	195	10,002	...	208	1,189	21,209	33,661
矢巾町	175	2,472	249,622	...	137	1,320	31,529	24,208

資料：岩手県統計年鑑

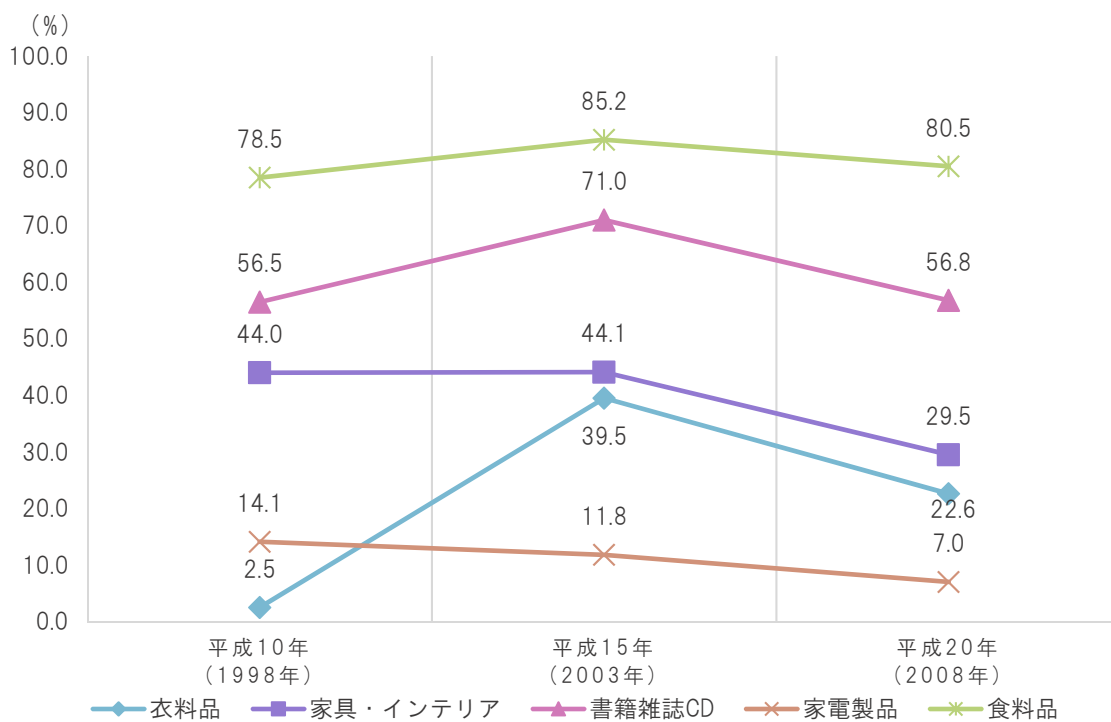
(3) 周辺市町村の大規模商業施設の概要

市町名	店舗の名称	店舗面積の合計 [㎡]
盛岡市	イオンモール盛岡	39,800
	イオンモール盛岡南	37,195
	盛岡駅ビル	16,916
	イオンスーパーセンター盛岡渋民店	16,320
	盛岡南ショッピングセンターサンサ	13,566
	前潟ショッピングセンター	12,789
	MOSS	8,908
	盛岡市中央卸売市場総合食品センター	8,499
	クロステラス盛岡	5,030
矢巾町	矢巾ショッピングセンター	12,545
	B.H.Yahaba Town	4,008
	薬王堂矢巾店	1,484
	生鮮&業務スーパー矢巾店	1,405
紫波町	盛岡南ショッピングセンター・サンデー紫波店	9,248
	イオンタウン紫波	6,748
	アクロスプラザ紫波	3,428
滝沢市	牧野林ショッピングセンター	8,084
	ユニバースみたけ店	2,984
	滝沢巣子複合店舗	1,899

資料：大規模小売店舗立地法の届出一覧(岩手県)

(4) 地元購買力

衣料類や電化製品等の非日常的な買物は、盛岡南地区の商業施設に近接していることから、購買意欲は流出していますが、食料品等の日常品については、町内で購入しています。

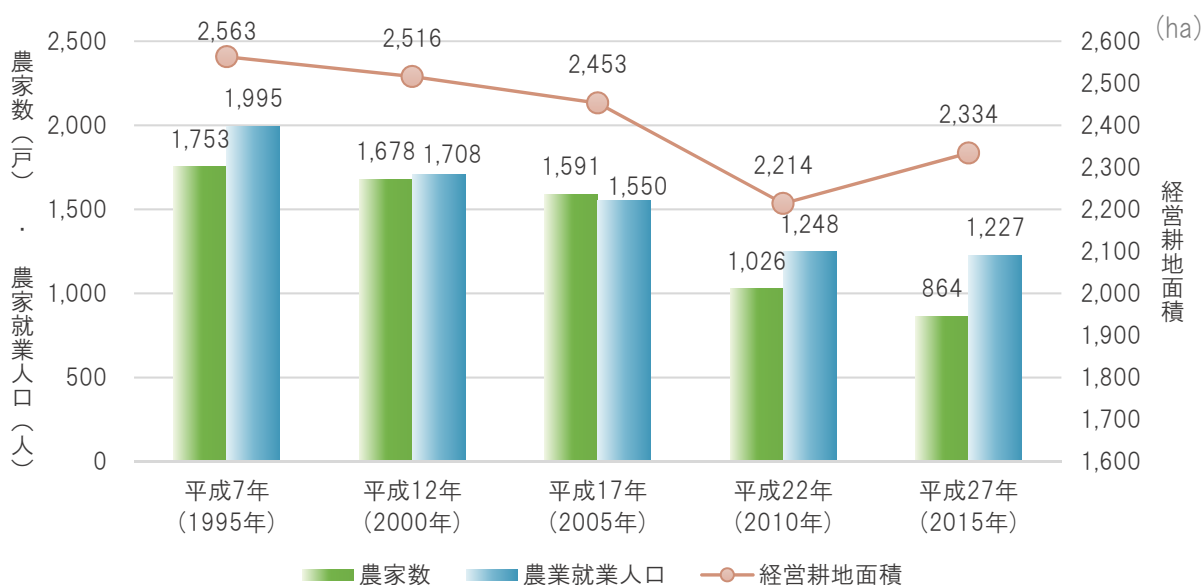


資料：岩手県広域消費購買動向調査結果報告書

2-4 産業の推移

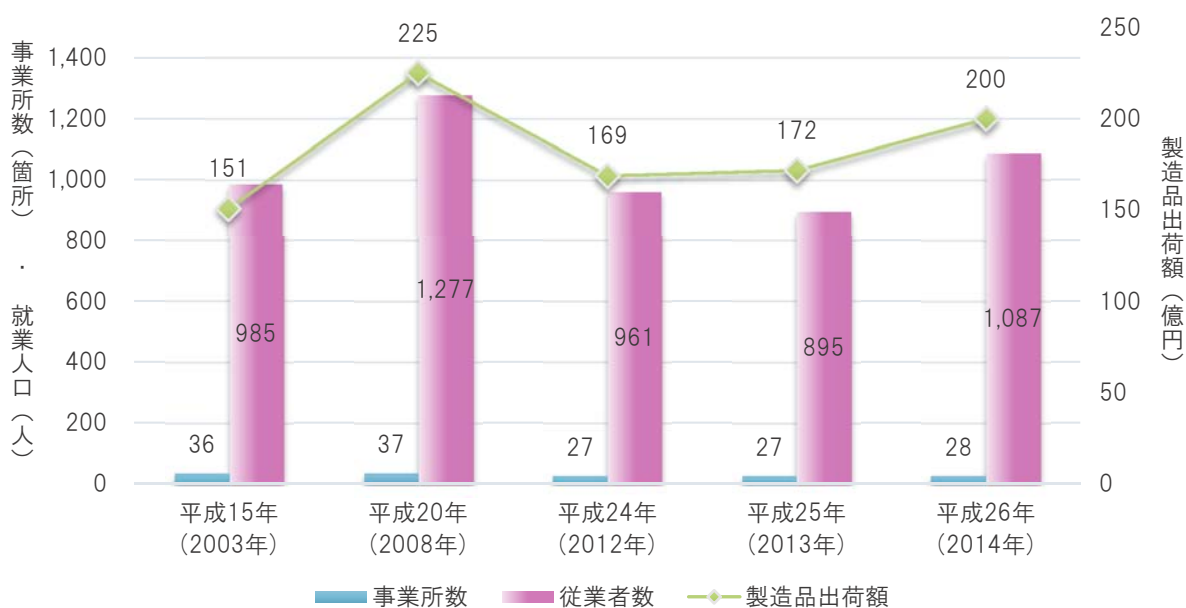
(1) 農業

農家・農業就業者数、経営耕地は減少傾向となっています。



(2) 工業

平成20年(2008年)をピークに減少していましたが、平成24年(2012年)以降、従業員数及び製造品出荷額は増加傾向となっています。



(3) 商業

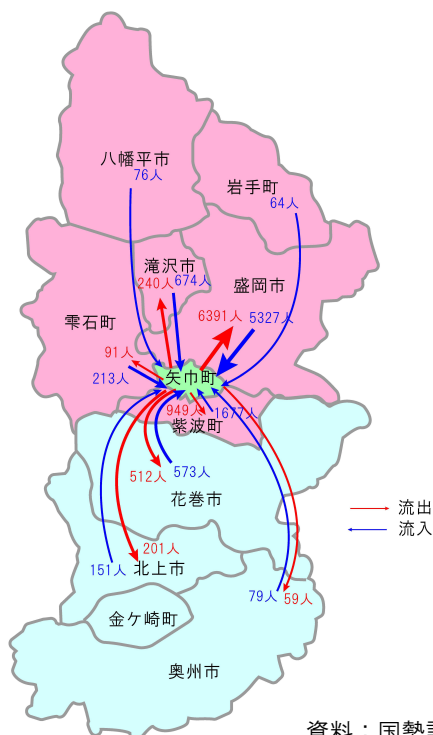
平成 19 年(2007 年)に比べ、事業所数、従業員数は減少していますが、年間販売額は伸びています。



資料：商業統計調査報告書

(4) 通勤通学に伴う流出・流入人口

岩手県の主要都市である盛岡市や北上市への流出が流入を超えています。その他の周辺の市町村からは、流入が流出を上回っています。



資料：国勢調査（平成 22 年(2010 年)）